

# タマミクリ

ミクリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

*Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) Neuman

国カテゴリー

準絶滅危惧

## 選定理由

従前はやや普通の植物であったが、近年、ほとんど見当たらない。(現況:RO)

## 形態

類似種との大きな差異は雄花の数が少ないことで、1または2個が相接して着き、あるいはまったくないこともある。雌花は腋上生で、雌蕊の長さは2mmときわめて短いことが特徴。直立した葉があり、幅6~12mm。

## 国内分布

北海道、本州(中部以北)。ヨーロッパ、アジア、北アメリカの温帯~寒帯に分布。

## 県内分布

かつて、加賀中央区、南加賀区、白山高地区に分布したことが記録上確かめられるが、現在、これを見ることができず、近年の調査では報告が皆無であった。

## 生態など

多年生抽水植物。花期は7~8月。

## 生育環境

浅水の池沼、河川、水路、湿原の池塘。

## 危険要因

現状では産地局限。激減したのは池沼開発によるものと思われるが不明。

## 特記事項

本種についてはホソバタマミクリとの区別の問題もあり、かつて採集された標本を分類学的に精査する必要がある。

小牧旌.1987. 加賀能登の植物図譜. 273pp. 加賀能登の植物図譜刊行会.

石川植物の会(編).1983. 石川県植物誌. 227pp. 石川県.



白井伸和・2006年9月25日・白山

分布図はありません。

県内の分布